

福祉のしごと ふくしごと

誰もが住み慣れた地域で
安心して住み続けるために

地域を創る 福祉のしごと



- 事業所職員による座談会
福祉のしごとへの想い
～誰もが住みやすい地域を創るために～

- データでみる世田谷
- 有識者インタビュー
- 若者の声
- 福祉の仕事の魅力

安藤 秀彦さん（あんどうファミリークリニック）
せたがや福祉区民学会学生理事・実行委員
越知 真智子さん（社会福祉法人 こころみる会）



福祉のしごとへの想い ～誰もが住みやすい地域を創るために～

福祉のしごとは人々の自立と尊厳を支える大変重要な仕事です。研修センターで講師を務めていただいている方々に、福祉のしごとへの想いを語っていただきました。皆さん、一緒に地域を創りませんか？



佐藤 庸平 氏

(医社)輝生会 居宅介護支援事業所 成城リハケア

芳村 裕子 氏

(社福)世田谷区社会福祉事業団 烏山ホームヘルプサービス

馬渕 瑞生 氏

ソフィアメディ(株)ソフィアメディ訪問看護ステーション成城

桑江 通友 氏

(社福)寿心会特別養護老人ホームフォーライフ桃郷

中川 邦仁丈 氏

(社福)せたがや桜の木 せたがや桜の木会相談部門

進行：瓜生 律子

世田谷区福祉人材育成・研修センター

福祉の仕事に 就いたきっかけ



佐藤 庸平 氏

芳村 …訪問介護事業所の所長、サービス提供責任者として仕事をしています。結婚を機に金融機関を退職し、

人のための仕事をしたいと思ったのがきっかけで、色々な経験を経て、今があります。

佐藤 …出生後、将来的に長く続けられる仕事をしたいとヘルパー1級の資格を取り、在宅介護一筋27年です。子育てをしながら介護福祉士、ケアマネジャーの資格を取得しました。学ぶことのつくりました。毎日です。

佐藤 …居宅介護支援事業所で主任ケアマネジャーをしています。幼稚教育を学んでいましたが、高齢者福祉の道に興味を持ち、特別養護老人ホームの生活相談員になりました。その後、社会福祉士の資格を取り、診療所のソーシャルワーカーを経て、在宅のケアマネジャーになりました。何か

桑江 …特別養護老人ホームの介護、人事・総務を経て、人材育成を担当しています。大学で物理学を専攻し宗教

学にはまり、幸せな生と死を考へ、大学卒業後専門学校で学び、高齢者福祉の道に進み20年になります。施設のお年寄りが、満足した毎日を送り、最期、良かつた…と思えるケアをしたい

馬渕 …訪問看護ステーションの管理者をしています。看護学校を受験し、病院附属の専門学校で学び、約4年、外科病棟で働きました。その後、訪問看護の事業所に移り13年になります。学生の時の国内外のボランティアの経験が今に繋がっています。

中川 …障害者の計画相談支援、緊急時ハックアップセンター等の統括をしています。保育園の時から友達と一緒にして、知的障害の人たちとの交流がありました。福祉系の大学で学び社会福祉士を取つて卒業後、実習した今の中法人に就職し、江戸川区の施設の立ち上げを担当しました。きっかけは長年、

40年以上になります。知的障害の方に関わってきたことが大きく、関わりは



桑江 通友 氏

佐藤 …その人が大切にして

仕事をのやりがい



芳村 裕子 氏

きたもの、価値感などを、色々な専門職の方々と共有しながら、チームでその人により良いプランを組み立てていくことがとても楽しいし、やりがいを感じています。長年の経験の中では、うまくいかないこともあります。感謝されることばかりではありませんが、それでも人のためになる、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

芳村：介護の仕事は日常生活の支援で、ご利用者に一番近い専門職です。信頼関係は簡単に築けるものではなく、訪問を重ね少しずつ関係が築かれていくことに喜びを感じます。また、その方の望む生活を実現するために、様々な介護の専門職としての役割を果たします。職員にいかにわかりやすくシンプルに伝えられる工夫をしています。職員が辞めずに成長していくことにやりがいを感じています。

チームで支援するといふにやりがいを感じています。
馬渕：やりがいは必要とされること。あの時、あの言葉に救われたと言われた時や訪問を心待ちにしてくださる方がいることは私の支えです。ご自宅で最期を迎える方が増えています。どのように生きたいか望みをお聞きしケアしますが、あれで良かったのかと思うこともあります。後でご家族から「その選択をして良かった」と言われた時は、ほつとし、次への力になります。

桑江：高齢者施設で認知症の方に、とことん付き合い、本人が納得してくれるのは嬉しい。リーダー職として、失敗も経験して、失敗と成功を職員に伝えていく中で職員の育成に役立てています。職員にいかにわかりやすくシンプルに伝えられる工夫をしています。職員が辞めずに成長していくことにやりがいを感じています。

中川：ソーシャルアクション、地域資源を作ることが大事で、今ある資源の改善や構築を常に考えています。これからこの福祉を良くするために、今、何をなすべきか、みんなで考える必要があります。地域を創る、それに関わるチームメンバーとの向き合い方や支援技術を上げることが、私のやりがいだし、役目、役割だと思います。

佐藤：相談者に介入しそぎ、初めてそれを拒否された時は辛かったです。拒否されても、見守り続ければ、手を差し伸べられる時が来るこれが教訓としてあります。見守ることで、「こんなことができる、」という一面があるという気づきにつながっています。そのことは、今も心に留め、部下に伝えたいと思います。

馬渕：新人の頃、お子さんの訪問で、お母様の厳しい目の中、毎回、緊張していました。お母様の仕事復帰の際、私も保育園の情報を集めて渡した時から、ケアは未熟だけど役に立ちたいという気持ちが伝わったのか、少し距離が近くなるのを感じました。今でもお子さんの成長の報告が届きまます。ご利用者のニーズを把握すること、お一人おひとりを大切に思う気持ちが重

中川：困難な問題と言つても、問題には必ず原因があり、その原因をしっかりと紐解いてアプローチする必要がありますが、行動のみにとらわれていると失敗します。行動の前後の本人のことをしっかりと確認することで、改善できることがあります。しっかりとアセスメントが必要です。

馬渕 瑞生 氏



中川 邦仁丈 氏

中川：心理的アセスメントも必要です。本人が何を考え、どういう思いや力があつて、その力をどのように發揮することができるかをしつかりアセスメントすることは、すべく大事です。できていることを伸ばしていくという一人一人の考え方、生活モデルを構築していくと仕事はやりやすくな

桑江：食事が全然とれなくなつた方を調べたら「転倒が危ない」と行動が制限されていることがわかりました。一緒に歩くようにしたら、食事がしつかりとれるようになりました。本人のやる気も奪つてしまいますが、やりたいことを制限する」とは、やる気も奪つてしまっていますので、福祉の基本をしつかり学べるように職員育成に努めています。

ります。 東京都や区の研修で受講者に常に伝えていきます。

佐藤 …ケアマネジャーリー
ダー養成研修では、収集し
た情報をケアマネジャーと
してどう判断するのか。そ
の背景には何があるのか。そ
の生活歴とか性格、心理的な
ものや何が影響しているの
か、アセスメントの大切さ

生活歴とか性格、心理的なものや何が影響しているのか、アセスメントの大切さを理解していただく区のアマネジヤー研修で講師を務めています。

馬渕：「一ーズをどう見る力、アセスメントする力が重要だと思います。」利用者様の「～したい」に気づき、それを実現するためにできることを考えていきますが、看護計画を立てるのが苦手

る」ことを考へてじきまですが、看護計画を立てるのが苦手な方が多いです。一つひとつのかへには意味があります。なんとなくかへするのではなく、根拠を丁寧に伝えていきます。どうしたら実現できるかを考えられるメンバーを増やしていくければ、地域としてもレベルアップができると思います。

伝えたい「ノル

中川..自分の軸・根拠をしつかり持つことがすごく大事だと思います。学びで

必要な知識を蓄え、経験をしつかり積んでいただきたい。福祉の仕事に就いた以上は、プロとしてどんな社会を作っていくかなど考えて欲しいと思います。

5年先、10年先、福祉の仕事を自分で自分は何をしていくかとの思いを持つと、福祉職場から離れず、色々な経験が糧になって、力がついてより良い福祉人としての将来が待っていると思います

馬渓：たくさん人の経験や人には揉まれて、今があります。今も私も迷うし、悩んだ時には、前に向かった話し合いができるれば自分も成長できるし、できる」とも増えしていくので、一緒にやつていけたら」と思います。

込みました。皆さんのチャレンジをお待ちしています。

佐藤：この仕事は、ご利用者の最期のステージに寄り添い、その方の生き様を見せていただき、その関わりの中で自分を見つめ直す機

会を持つことができます。

重たい仕事ですが、とても尊い仕事だと思います。ま

た、地域の様々な人たちとともに仕事をすることです、視野が広がっていきます。それもやりがいにつながっています。私たちが全力で

サポートしていきます。
一緒に頑張りましょう。

瓜生：研修センターで講師をしていただいている方々にご登壇いただき、福祉の仕事について、熱く語つていただきました。福祉の事

業所には、魅力的な先輩方がたくさんいらっしゃいます。福祉の仕事は、知識や

技術、経験に基づき、人々の尊厳を支える大切な仕事です。研修センターでは、様々な研修など行っています。皆さん、研修センター

を活用ください。お待ちしています。



瓜生 律子

データでみる世田谷

■世田谷区の概要

●年齢階層別人口（各年1月1日）



●世田谷区の将来人口推計によると、団塊の世代が75歳以上（後期高齢者）となる令和7年以降も高齢者の占める割合が増える一方で、15～64歳（生産年齢人口）と0～14歳（年少人口）は一貫して減少する。出典：世田谷区人口推計（令和5年7月）

■福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査 概要

●調査期間：令和4年10月～令和5年1月

●調査項目：(1)介護ロボットの状況 (2)ICTの導入状況 (3)外国人職員在籍状況
(4)腰痛予防策 (5)求人方法 (6)職員への支援策 (7)補助的業務の活用 等

●配付事業所数：1,323事業所（高齢：929事業所 障害：394事業所）

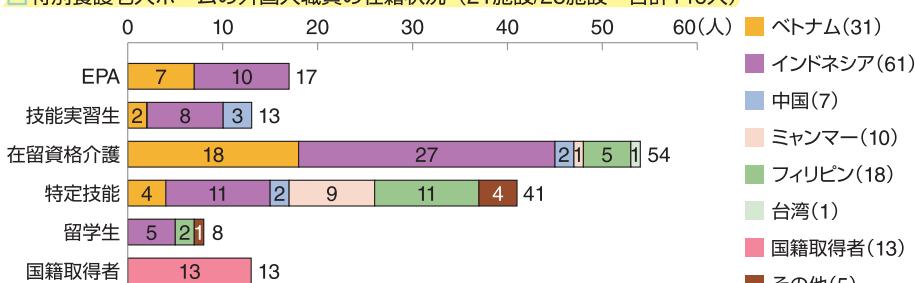
●回答事業所数：433事業所（高齢：281事業所 障害：152事業所）

●回収率：32.7%（高齢：30.3% 障害：38.6%） ●回答件数：315件

□介護ロボット利用状況 66件 / 315件 (21%)

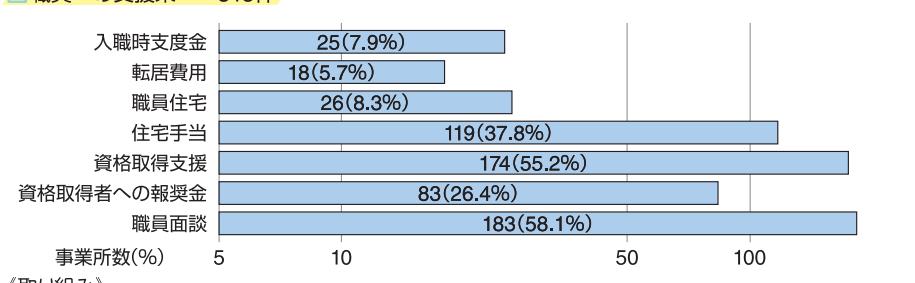
	睡眠センサー	見守りセンサー	睡眠+見守りセンサー	移乗・移動リフト	移乗アシスト	コミュニケーションロボット
導入事業所数	27	21	10	36	9	6
活用している	25	20		32	5	5
活用できていない				3		1
利用者・職員両者に効果	21	15		17	2	2
利用者に効果	1	4		9		3
職員に効果	4	1		4	3	
効果なし				2		
特養ホーム	17	12	9	12	8	3
老健	2	1	1			
（看護）小規模多機能	1					
特定施設入居者	5	2		2		
グループホーム	1	3		1		
訪問・通所系		2		9	1	
障害者（重度訪問・生活介護）				10		

□特別養護老人ホームの外国人職員の在籍状況（21施設/28施設 合計146人）



●この3年間で特別養護老人ホームの、介護ロボットの活用、外国人職員は増えている。

□職員への支援策 315件



- 定期的な面談実施、意見が言い易い環境の維持など、お互いを思いやり、チームワークを大切にし信頼関係を築き、定着支援につなげている。
- 職員宿舎借上げについて、都や区の制度を利用するほか、法人独自で借上げを行い、採用や定着に力を入れている。
- 資格の取得助成の活用や登録ヘルパー助成対象の研修を活用している。

医師として地域で活躍されている安藤秀彦先生に
医師になるきっかけやこれからの方へのメッセージなどを伺いました。



～様々な出会いを大切に～ …地域の方の健康づくりと暮らしを守る…

安藤 秀彦 氏

世田谷区医師会副会長 あんどうファミリークリニック院長

インタビュア：世田谷区福祉人材育成・研修センター長 瓜生 律子

瓜生 医師となるきっかけは？

安藤 小学生の時に仲間3人で「医者になろう」と。今、3人とも医者をしています。高校で進路に悩んでいた時に先生から、クローニンの「城砦」を読みなさいと勧められ、「やっぱり医者になろう」と思いました。適切なアドバイスを授けて下さった先生に本当に恵まれました。地域に暮らす方々の命と健やかな暮らしを守り、穏やかな毎日が送れるように、偉そうですが、日々奮闘しています。

瓜生 研地域ご近所フォーラム？

安藤 平成12年に介護保険制度がスタートした時に、ケアマネジャーの皆さんと勉強会を行い、それを機に医師とケアマネジャーの話し合いの場が生まれ、小泉先生（「ふくしこと2号」に登壇）が「この会、花火上げて盛り上げましょ」と始まったのが、「研地域ご近所フォーラム」です。月に1回集まって、「認知症の方を地域で支えるには？」などもや子育て中のお母さんにどんなサポートが望ましい？」など地域づくりの様々なテーマについて、色々語り合いアイデアを出し合っています。ご近所フォーラムでは訪問看護師や介護の最前線にいるヘルパー、薬剤師や大学教授、行政職等、様々な職種の方からたくさんのことを行いました。垣根のな

い交流や意見交換は非常に益するところが大きく重要と思います。職種を超えて様々な出会いがあり、私にとっても貴重な学びの場となっています。絶対、おすすめの会です。皆様もぜひご参加下さい。

瓜生 人材確保について

人材の問題はどうも苦労しているので、福祉人材育成・研修センターへの期待は大きいです。特に若い方々に参画してほしいです。皆さんの思いや願いの実現のためのヒントやきっかけが提供できるように、私たちもサポートしていきたいと心から思っています。

瓜生 これからの方へメッセージ

まずは「飛び込んでみて」と言いたいです。心配・不安は承知の上です。「失敗してもいい。だめだったら、やりなおせばいい」と面白い」「気持ちの優しい方がいる」など、色々な発見や新しい展開がある」とでしょう。

迷つたらぜひ一歩踏み出してみて下さい。一歩踏み出してみると道がパツッと開けます。生きている間にたくさんの方々との出会いがあり、感動があり、あなたを興奮させることでしょう。

私が恩師に「どう恩返しをしたらいいか？」と訪ねたとき、「もし、あなたが私から何か学んだのであれば、それを次の方々に伝えて下さい」と言われました。その言葉を胸に、地域の皆さんとのつながりを大切にして「医者のイメージを変えていきたい」と思っています。

瓜生 仕事継続の秘訣は？

「大切なものは目に見えない」大切なお出会いを見過ごさないよう励んでいきたいと思います。

かつた、話して「うらんよ」と言ってくれる仲間がいてくれると、本当に仕事がやりやすくなります。悩みは一人で抱えないで、誰かに「こんなことで辛い」と話すことで、不思議にその瞬間から改善が始まっていくのではないかでしょうか。

安藤 人材の問題はどうも苦労しているので、福祉人材育成・研修センターへの期待は大きいです。特に若い方々に参画してほしいです。皆さんの思いや願いの実現のためのヒントやきっかけが提供できるように、私たちもサポートしていきたいと心から思っています。

安藤 まずは「飛び込んでみて」と言いたいです。心配・不安は承知の上です。「失敗してもいい。だめだったら、やりなおせばいい」と面白い」「気持ちの優しい方がいる」など、色々な発見や新しい展開がある」とでしょう。

迷つたらぜひ一歩踏み出してみて下さい。一歩踏み出してみると道がパツッと開けます。生きている間にたくさんの方々との出会いがあり、感動があり、あなたを興奮させることでしょう。

私が恩師に「どう恩返しをしたらいいか？」と訪ねたとき、「もし、あなたが私から何か学んだのであれば、それを次の方々に伝えて下さい」と言われました。その言葉を胸に、地域の皆さんとのつながりを大切にして「医者のイメージを変えていきたい」と思っています。

「大切なものは目に見えない」大切なお出会いを見過ごさないよう励んでいきたいと思います。

経歴：宮崎県都城市出身。自治医科大学卒業。僻地医療、宮崎県立病院勤務後、東大で学位取得。フランス留学・群馬県立病院・東大病院を経て、平成13年世田谷区砧で「あんどうファミリークリニック」開業。令和5年6月より世田谷区医師会副会長。医学博士。砧地域ご近所フォーラムの実行委員・名司会者。ニックネームはDr.Andy。趣味はサクソフォン。砧地域ご近所フォーラム2024：日時・令和6年3月16日（土）13時～15時半 会場・成城ホール



若者の声

せたがや福祉区民学会 第15回大会「多様性を認め合う地域を目指す～心でつながる居場所づくり～」をテーマに学生理事・実行委員を中心にワークショップを開催しました。第15回大会・ワークショップに携わった皆さんに感想を伺いました。

神崎 野恵（昭和女子大学）

他大学の人と福祉の話をする機会がなかなか無いので、皆さんから色々な話が聞けて有意義な時間が過ごせました。（理事）

定方 美穂（昭和女子大学）

他大学で他の分野を学んでいる方の意見をお聞きしたことで、自分の視野を広げる機会になりました。（理事）

湯澤 紗英（駒澤大学）

関わったことのない大学の皆さんと交流し、つながりが広がったように思う。福祉という共通の話題を通して、考えを深められました。

蛭間 晃雅（東京都市大学）

「ワークショップの自分のグループでは、意識しないと障害というものは見えていないという意見が出て、心に響きました。

笛木 優太（東京都市大学）

越知さんの話や実行委員・グループの様々な方との関わりを通して、学びを得ることができた。この経験を活かし過ごしていきたいです。

松村 知比古（東京農業大学）

普段目にしたり経験していることが普通ではないことに改めて気づいた。障害という目に見えない壁があるにあるということを痛感しました。

伊東 茜（日本女子体育大学）

学会に参加し一人ひとり様々な視点から捉え、物事の新しい見方に気づくことができた。視野を広げ、できることから取り組みたいです。

細野 友莉伽（日本女子体育大学）

障害者の方への理解を深め、関わる機会を増やしたい。来年は、日本女子体育大学で開催されるので、より良いものにしていきたいです。

基調講演やワークショップを通じてさまざまな方と意見交換ができ、大変楽しかった。また、このような機会があったら参加したいと思います。

森 香雅里（駒澤大学）

自分から積極的に活動したいです。

三沢 勝斗（日本大学文理学部）

自身の「福祉」の幅が広がり、実際に体験することの重要性を感じた。多様性な社会を考えるために、ワークショップに携わったことがあります。

清水 万悠子（日本大学文理学部）

皆さんのが胸の内を明かし、感じていることは自分だけではないと思った。自信につながり、もっと自分らしく過ごしたいと思います。

藤田 優翔（日本大学文理学部）

発表と実行委員に携わり、発表準備やワークショップの進行の難しさなど大変なこともあったが、良い経験となり自身の成長につながりました。

清田 遥貴（東京農業大学）

他大学の方との交流を楽しみ参加できた。思いもつかない発想を持つている方もおり刺激となり、この経験を自分のものとし、レベルアップしたいです。



福祉の仕事の魅力

「足るを知る」～知的障害の方から教わったこと～

社会福祉法人こころみる会統括管理者 ココ・ファーム・ワイナリー農場長

越知 真智子

特に就職活動もせず、大学を出ても他にやりたいと思った仕事もなく、何となく父が始めた知的障害の人たちを対象とした入所施設で働くことにしたというのだが、私が福祉の仕事に就くことになった理由です。ですから、自分の周りに障害を持つ人がいなくても困っている人の力になりたいと、高い志を持って福祉の仕事に就く人たちは本当に立派だと思います。

動機はさておき、この仕事に就いた自分はとてもラッキーだと思います。なぜなら、「ここで働き、暮らしている」知的なハンディを持った人たちから、たくさんの素敵なお土産をもらえるからです。

素敵なお土産を私にくれたひとりが、「きいっちゃん」です。きいっちゃんは、知的障害と精神障害を抱えていて、こころみ学園に来る前は、精神科病院に入院していました。30年ほど前にこころみ学園に入所されました。普段は人なつっこいまじめな働き者です。

「自分の仕事はこれ」と決めたら、コツコツと一生懸命にやります。ただ、自分のして欲しいことを相手がしてくれないと、相手の顔に爪を立てて引っかいてしまいます。相手の顔に自分の顔を近づけ、相手の顔めがけて唾をかけてしまうこともあります。そんなことをしてしまったあとは猛省し、あとで理由を聞くと、きいっちゃんなりの理由はあるのですが、やはり理由はどうであれ困った癖のある人です。

社会福祉法人こころみる会の取組みは、世田谷区福祉人材育成・研修センターホームページ>せたがや福祉区民学会第15回大会報告集「基調講演「障害者支援施設こころみ学園とそのワイン醸造場ココ・ファーム・ワイナリーの歩み～あったもがんばん～」に掲載。



こころみ学園の人たちはみんな缶コーヒーが大好きですが、ご多聞に漏れず、きいっちゃんも缶コーヒーが大好きです。ある時スタッフが、きいっちゃんに聞いてみました。

S：きいっちゃんは缶コーヒー好き？

K：うん、うん、好きだよ。

S：じゃあ、きいっちゃん。ポッカの缶コーヒーとジョージアの缶コーヒーどっちが好き？

K：ポッカの缶コーヒーがいいな。

S：なんで？

K：ポッカの缶コーヒーは甘いかんな（甘いから）。

S：じゃあ、きいっちゃん。ポッカの缶コーヒーと100万円はどっちがいい？

K：ポッカの缶コーヒーがいいな。（と、即答）

S：じゃあ、ポッカの缶コーヒー1本とポッカの缶コーヒー10本はどっちがいい？

K：（少し迷ってから）ポッカの缶コーヒー1本がいいよ。

S：えっ？ どうして？？

K：あんまりいっぱいあると、はら壊しちゃうかんな（おなかを壊してしまうから）

「足るを知る」大好きな大事なものはひとつあれば充分。そんな哲学を、きいっちゃんは私に教えてくれました。



社会福祉法人
こころみる会



社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団 世田谷区福祉人材育成・研修センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-37-10

世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1階

電話 03-6379-4280 FAX 03-6379-4281

URL <http://www.setagaya-jinzai.jp>

受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15

アクセス 小田急線「梅ヶ丘」駅北口 徒歩 5分
小田急線「豪徳寺」駅 □ 徒歩 8分
東急世田谷線「山下」駅 □ 徒歩 14分
京王井の頭線「東松原」駅 徒歩 14分
小田急バス「松原」 徒歩 1分

